

第33回

ジャパンウィーク2008年
フランス・ストラスブール

JAPAN WEEK

The 33rd Japan Week France Strasbourg 2008



[開催期間] 2008年11月22日(土)~11月27日(木)

Period of the Event 22nd Nov. (Sat) - 27th Nov. (Thu), 2008, 6 days

[開催地] フランス・ストラスブール市

Host City Strasbourg, France

[助成]



EXPO'70

独立行政法人 日本万国博覧会記念機構
Commemorative Organization for The Japan World Exposition '70



財団法人 双日国際交流財団

日仏交流 150周年



日仏交流
150周年事業

ごあいさつ

フランスの東、ドイツの国境に近いアルザス州に位置し、「ヨーロッパの十字路」としてフランス・ドイツの特色を合わせ持つ、緑と運河に囲まれたストラスブール。そのストラスブールにて2008年11月22日から11月27日までの6日間にわたり「第33回ジャパンウィーク2008年フランス・ストラスブール」が開催された。

さまざまな文化活動を通して日本の素顔を紹介する市民レベルでの国際文化交流を行うこの事業に、日本全国より41団体・1,100人におよぶ方々が熱き思いを胸に、ストラスブールを訪れた。また、フランス側からも初日と最終日のイベントに100人のご参加をいただいた。現地参加型の「双方向の交流」（日本側の参加者だけでなく、フランス側からも参加いただき「交流」する）を大きなテーマとして、両国民同士のきずなを深めた。

オープニングフェスティバル、舞台公演、展示・実演、古武道&祭り、料理交流、訪問交流プログラムなど、6日間にわたり行われた各イベントプログラムはストラスブール市民はじめフランス国民が多数来場し、大盛況であった。

ジャパンウィーク6日間の感動・かけがえのない体験・草の根交流の様子をこの報告書にて堪能していただきたい。

CONTENTS 目次

会長挨拶／実行役員名簿	1
イベント概要	2
事業の実施概要	2～3
オープニングフェスティバル	4
オープニングレセプション	5
開催地 周辺地図	6
劇場公演	7～11
リボンカッティングセレモニー	12
展示・実演	13～17
日本の心 古武道演武会&祭り	18～19
表敬訪問	20
交流プログラム	21～27
西日本友好親善訪問団 交流プログラム	28
野外宣伝 (パフォーマンス)	29
新聞記事	30～31
開催時の現地の様子	32

参加団体一覧

都道府県団体名

- 北海道 絵手紙教室いち語いち絵／絵手紙
- 宮城県 ザ・ウィザース／楽器演奏、さくらモダンバレエスクール／バレエ、佐取純子モダンバレエスタジオ／バレエ
- 栃木県 津軽三味線貞清世会／楽器演奏
- 埼玉県 日本折紙協会 有志の会／折り紙、書道家 矢部澄翔／書道
- 東京都 あやめ会 姫猿之助／大衆演劇、きもの帯結び・あやはた／着物、きものレディ着付学院／着物、講談 神田紅／講談
全日本婚礼美容家協会／婚礼美容、早稲田ちんどん研究会／ちんどん、松和会／表千家道、コレクターが賞を選ぶ絵画展／絵画
株式会社美研インターナショナル「Salon du soleil」／美術作品展示、琉球古武術 保存振興会／古武道、
学校法人 東京製菓学校／和菓子
- 神奈川県 横浜木琴クラブ／楽器演奏、梨羽太郎／剣舞
- 長野県 財団法人 煎茶道方円流／煎茶
- 新潟県 北日本書芸院換鷹会／書道
- 静岡県 日本民謡研究会 浜松支部／民謡、煎茶道静風流／煎茶
- 愛知県 草木染工房しかり／草木染め、箏曲寿都音会／琴展示・実演
- 京都府 京小町踊り子隊／小町踊り
- 大阪府 円心流居合拵物剣法／古武道、関西観光プロモーション実行委員会／自治体展示、マクロピクッキングスクール／オーガニック料理
西日本友好親善訪問団／視察・交流
- 兵庫県 姫路日仏協会／お好み焼き
- 和歌山県 スタジオほこ・あゝほこ／タップダンス
- 岡山県 桑原専慶流／いけばな
- 島根県 仁多乃炎太鼓／和太鼓、ほてとはうす／舞踊
- 福岡県 神道夢想流杖術／古武道、日本伝統工芸「能面」麻生能忍展／能面
- 熊本県 伯耆流居合術／古武道
- フランス 財団法人自治体国際化協会 パリ事務所／自治体展示、日本政府観光局 (JNTO) パリ観光宣伝事務所／自治体展示
- ドイツ・スイス・フランス 一期一会／茶道

合計41団体

会長挨拶

愛知和男

第33回ジャパンウィーク2008年フランス・ストラスブール 日本側実行委員長
衆議院議員 財団法人 国際親善協会会長

今回で第33回目を迎えましたジャパンウィークが、日仏交流150周年事業としてフランスのストラスブール市において開催され、日本側参加団体および現地関係者の皆様のご協力のもと無事終了できましたことを心より感謝申し上げます。

舞台公演、展示・実演、日本の心と題して開催した古武道と祭りのイベント、そしてストラスブール市内の学校や老人ホームへの訪問交流や各種交流プログラムにおいて両国の友好親善の輪を幅広く展開することができました。さらにストラスブール市民の方々のご心温まる観覧・見学・交流にのぞむ姿にも深く感銘を受けた次第です。

このジャパンウィーク開催を機に益々日本・フランス両国の絆と友情が深まり、末永い様々な交流が続けられることを願ってやみません。今回のジャパンウィークに遠路フランス・ストラスブールまでお出かけいただきました日本側参加団体の皆様方の民間大使としての熱き思いとそのご活躍、そして現地関係者の皆様のご支援なくしてジャパンウィークは成り立ちませんでした。改めて敬意を込めて、深く御礼申し上げます。

最後に、多大なるご支援・ご協力をいただいたフランス側および日本側関係者の皆様方そして連日連夜にわたりジャパンウィークの運営に携わっていただいたボランティアの皆様方に深く感謝申し上げますとともに、今後とも皆様のご支援・ご指導によりジャパンウィークを発展・向上させて開催国との友好と国際親善の輪を広げ、世界の恒久平和の輪を築くことを祈念して挨拶とさせていただきます。

実行役員名簿

■日本側

実行委員長	愛知 和男	衆議院議員 財団法人国際親善協会会長
名誉顧問	飯村 豊	在フランス日本国特命全権大使
顧問	川田 司	在ストラスブール日本国総領事
理事	香山 充弘	財団法人自治体国際化協会理事長 財団法人国際親善協会評議員
理事	今村 忠雄	社団法人日本海外協会会長 財団法人国際親善協会評議員
理事	山崎 正夫	西日本旅客鉄道株式会社代表取締役社長
理事	南谷昌二郎	西日本旅客鉄道株式会社顧問
理事	兵頭 誠	日本興亜損害保険株式会社代表取締役社長
理事	大西 誠	株式会社日本航空インターナショナル常務執行役員東京支店長 財団法人国際親善協会理事
理事	見並 陽一	東日本旅客鉄道株式会社常務取締役
理事	丸尾 和明	株式会社日本旅行代表取締役社長
事務局長	古田 親吾	財団法人国際親善協会常務理事

■フランス側

実行委員長	Roland Ries	ストラスブール市長
理事	Guy-Dominique Kennel	バラン県議会議員
理事	Adrien Zeller	アルザス地方議会議員

イベント概要

- 開催都市 フランス共和国ストラスブール市
 開催期間 2008年11月22日(土)～27日(木) 6日間
 開催規模 日本側参加者 約1,100人
 現地側参加 見学者 約12,000人
 日本側主催 財団法人 国際親善協会
 開催国側主催 ストラスブール市
 後 援 在ストラスブール日本国総領事館、経済産業省、国土交通省、文部科学省、在日フランス大使館、フランス政府観光局、独立行政法人国際観光振興機構、独立行政法人国際交流基金、日本貿易振興機構(ジェトロ)、財団法人自治体国際化協会、財団法人地域伝統芸能活用センター、社団法人日本海外協会、
- 助 成 独立行政法人日本万国博覧会記念機構、財団法人双日国際交流財団
- 協 賛 日本航空、日本興亜損害保険株式会社、株式会社みずほコーポレート銀行、西日本旅客鉄道株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、株式会社日本旅行、
 Région Alsace(アルザス地方) Ville de Colmar(コルマール市)
 SNCF(フランス国有鉄道) CEEJA(アルザス・欧州日本学研究所)
 ADT 68(南アルザス観光局) OT de Colmar(コルマール観光局)
 OTSR(ストラスブール観光局) ADT 67(北アルザス観光局)
- 目 的 「ジャパンウィーク」は、日本の生活文化、芸能、美術、音楽、ファッション、スポーツ、経済等を通じて日本を紹介するとともに、開催地住民も参加し、市民レベルの文化交流により、相互理解・友好親善を図る。
 この「ジャパンウィーク」は、各会場での公演、展示、実演などによって構成されているが、一方通行の文化紹介にとどまることのないよう、開催地の人々の参加を促し、心と心がふれあう交流を実現できるワークショップ等のプログラムづくりにも力を入れている点にその特徴がある。

事業の実施概要

1. ジャパンウィーク運営組織について

当事業は日本・フランス両国に各々実行委員会を組織し、日本側は愛知和男/財団法人国際親善協会会長が実行委員長を務め、フランス側はロラン・リース ストラスブール市長を実行委員長とし、両国事務局互いの協力のもと、開催会場・施設の決定や告知PR活動・イベントの取り纏めなどを推し進めた。特に開催会場・施設については各実施予定プログラムの主旨をストラスブール市に理解していただき、主なイベント会場を市の中心部である旧市街にご用意頂いた。

日本より都合6回に亘る現地打合せ、電話および電子メールでの情報交換・諸々の折衝を行い相互の協力体制を着々と築き上げ成功へのステップを確実なものにして行った。

特に現地にてジャパンウィーク開催約1年前の12月、そして再び開催直前の11月20日にはフランス側実行委員会による記者会見を設定していただき、日本側からも参加し、これを契機に一気にジャパンウィーク開催の機運を高めていただいた。

日本側では2007年の夏より全国に招致活動・告知活動を開始し、並行して関係資料の作成・説明会の実施などを行い、参加団体応募の後は各団体と参加プログラム、荷物の輸送の打合せ、各公式行事やイベントプログラムのアレンジなど数多くの業務をこなしてきた。

2. 広報・告知について

現地側広報・告知に関しては、ストラスブール市、在ストラスブール日本国総領事館そしてコーディネーターの皆様にご協力いただいたおかげで観客動員ができた。下記が関係各機関にご協力いただいた広報・告知活動である。

(1) メディアでのプロモーション

ウェブサイト、新聞を中心としたPR展開を実施

① 市のウェブサイト

市のウェブサイトに、当協会のウェブサイトをリンクすることも含めてPR

② 在ストラスブール日本国総領事館のウェブサイト

2008年イベントカレンダーにてPR

③ 新聞

フランス大手新聞DNAの地方版にて、ジャパンウィーク開催前からジャパンウィーク関連記事、および参加団体について計10回記事を掲載

④ 11月22日、オープニングフェスティバル時に国営テレビの取材

(2) PRツール作成およびその配布

① ポスター (40cm×60cm) 2,000枚

② バス・トラムストップ用ポスター (120cm×175cm) 90枚

③ イベントプログラム (リーフレット) 40,000枚

④ ジャパンウィークデザイングッズ、各イベント会場に設置

日本から持参した「法被」を市の職員が着て、下記のようにリーフレットを配っていただいた

11月20日 (木) 06:00~10:00 ストラスブール駅前にて

11月22日 (土) 13:00~18:00 舞台公演会場となりのショッピングセンター、大聖堂、プログリー広場等

3. 各イベントプログラム

ジャパンウィークの大きなテーマは「双方向の交流」であるが、日本側のみの参加だけでなくオープニングフェスティバル、舞台公演、交流プログラムについてフランス側からの団体にも参加していただき、出演者、展示者間の交流が深まるようイベント作りをした。

イベントは11月22日 (土) の午後にプログリー広場にてオープニングフェスティバルが開催されジャパンウィークの幕があけた。その後、ストラスブール大学講堂でのオープニングレセプション、CMD (国立音楽舞踊専門学校) での舞台公演と続いた。舞台公演は26日 (水) を除く、27日 (木) まで毎日開催した。

展示・実演は23日 (日) のリボンカッティングに始まり、ブルス多目的ホール、CCI (ストラスブール商工会議所) の両会場にて27日 (木) まで行った。

ロトンド体育館では23日 (日) に「日本の心」古武道&祭りを実施した。

交流プログラムの学校訪問については8団体、老人ホームについては5団体が参加し、料理交流プログラムは3団体、日仏一般交流プログラムは1団体参加し、各団体ともに肌と肌をふれあう心のこもった草の根交流に大感激していた。

毎年参加いただいている西日本親善訪問団は、鉄道シンポジウム、貸し切り列車イベントおよびストラスブールナイトにて大いに親善交流の輪を広げて貰った。

4. ストラスブール日本国総領事館のご協力とボランティアの活躍

特に今回のジャパンウィークが大盛況に終えることができたのは一重にストラスブール日本国総領事館の川田総領事をはじめ総領事館の皆様のご協力による賜物である。

今回も数多くのボランティアの方々に協力して頂いた。ボランティアについては、ストラスブール在住のフランス人学生、日本人留学生、在留邦人など幅広い方々にご協力いただいた。ジャパンウィーク・スタッフの一員として朝早くから夜遅くまで本当に頑張っていた。ボランティアの方々の協力無くして、ジャパンウィークの成功はありえなかったと言っても過言ではない。

オープニング・フェスティバル

[日時] 11月22日(土) 15:00~17:00

[場所] プログリー広場 特設ステージ

日本側

愛知和男財団会長、川田司在ストラスブル日本国総領事、橋本和生理事代理、大西誠理事、丸尾和明理事、古田親吾財団常務理事

フランス側

ロラン・リース 市長、ナウエル・ラフィック エルムリニ 副市長、ファビエン・クラール バラン県議会議員、アンドレ・クライン アルザス欧州日本学研究所所長、アニック・ネフ副市長、ラファエル・ニサン ストラスブル都市コミュニティ副代表、アドリアン・ゼラー アルザス地方議会議長

参加者

早稲田ちんどん研究会、京小町踊り子隊、仁多乃炎太鼓、あやめ会 姫猿之助、コルマル及びストラスブル日本人補習校有志、ニードルモルシュビール小学校

朝から雪の舞うとても寒い一日。雪が吹き込んだステージの上、京小町踊り子隊の熱のこもったリハーサルに皆が感動させられた。早稲田ちんどん研究会のコミカルな衣装とパフォーマンスでオープニングフェスティバルの幕が開き、大きな拍手が送られた。

続いての地元日本人補習校の生徒有志と地元ニードルモルシュビール小学生生徒による合同の器楽演奏と合唱は多くの観客の心を捉えた。

ストラスブル市長、愛知会長、川田総領事が出席したセレモニーに続き、京小町踊り子隊による初々しいお嬢さん方の美しい群舞、妖艶な仕草と踊りで観客を魅了するあやめ会 姫猿之助の独演、そして仁多乃炎太鼓の勇壮な演奏に寒さも吹き飛んでしまった感じでした。

今回のストラスブル・ジャパニウィークの成功を暗示するかのように、本番が始まるころには雪も止み、日差しも出てきてジャパニウィークを歓迎してくれている様子。かなりの数の観客が最後まで暖かい大きな拍手を送ってくださっていた。終演後、出演者たちの顔が、達成感と満足感で輝いていた。



早稲田ちんどん研究会



京小町踊り子隊



コルマル及びストラスブル 日本人補習校有志



あやめ会 姫猿之助



ニードルモルシュビール 小学校



仁多乃炎太鼓



オープニング・レセプション

〔日時〕 11月22日（土） 17：30～19：30

〔場所〕 ストラスブール大学 講堂

日本側

愛知和男財団会長、川田司在ストラスブール日本国総領事、
橋本和生理事代理、大西誠理事、丸尾和明理事、古田親吾財団常務理事

フランス側

ロラン・リース 市長、ナウエル・ラフィック エルムリニ副市长、
スアド・アル・マイスール 都市コミュニティ副代表、アニック・ネ
フ 副市长、ラファエル・ニサン ストラスブール都市コミュニティ
副代表、アドリアン・ゼラー アルザス地方議会議長

参加団体 29団体



無事に「オープニング・フェスティバル」を終えることができたおかげで、和やかな雰囲気でのレセプションを始めることが出来た。レセプションスタート前には間接照明に照らされた会場にて参加者を地元のストラスブール大学のコーラス部が厳かなコーラスで出迎えた。レセプションはほぼ時間通りに始まり、日本・フランス双方のスピーチが参加者の気持ちを高揚させてくれた。愛知会長とストラスブール市長との両国を代表するプレゼント交換の後、参加証書がストラスブール市長より各出席団体代表にステージ上で手渡された。

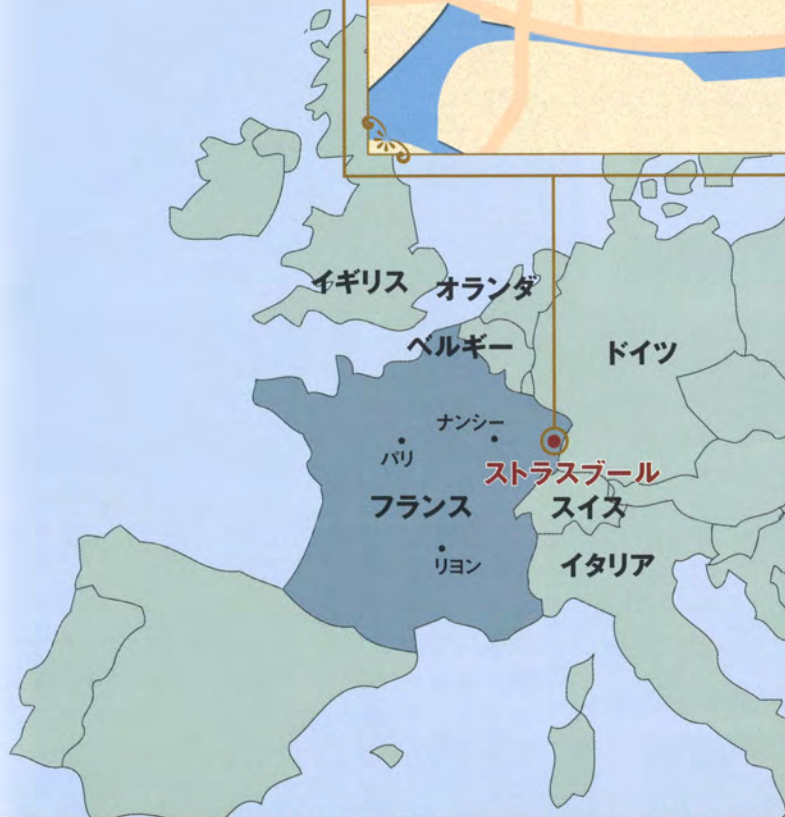
引き続き、ストラスブール市長より「乾杯」の挨拶がなされ、参加者はストラスブール大学のコーラスを聴きながら、用意いただいた飲み物やパーティー料理を楽しみ、両国の実行委員会と歓談をした。また、最後にはステージに上がって記念撮影をする団体もあり、思い出に残るレセプションのひとつであった。



MAP 1 プログリー広場



MAP 2 ブルス多目的ホール



MAP 3 CMD (国立音楽舞踊専門学校)



MAP 4 アレクサンドル・デュマ料理学校



MAP 6 ロトンド体育館



MAP 5 CCI (商工会議所ホール)



劇場公開

ストラスブール旧市街中心地、大聖堂近くの、市文化課のチケットお渡し場所、「ブティックカルチャー」にて公演日の1週間前より毎日のように市民による各公演日の劇場チケットの引き取り数を当協会では気にしていた。公演日の3日ほど前までは100席以上チケットが残っている公演日があり心配したが、公演日が近づくにつれ、ジャパンウィークのチラシを持参しながら、「ブティックカルチャー」にチケットを求めて立ち並ぶ姿も見られ、下記報告の通り、実際の各公演日には連日満員御礼となった。

又、各参加団体の演技終了後の感動と感激に満ちた表情を間近に感じ、このイベントの成功を劇場公演で確信した。観客の反応も大喝采の拍手の連続、ときにはスタンディングオベーションもあり、公演は大成功のうちに幕を下ろした。

劇場公演11月22日

[日時] 11月22日(土) 20:00~21:40

[場所] 国立音楽舞踊専門学校 (CMD)

参加者

早稲田ちんどん研究会、あやめ会 姫猿之助、仁多乃炎太鼓

劇場公演の初日、朝から雪の降る寒い一日。観客の入りがとても心配だったが、開場時間前に長い列が出来るほどの盛況さ。結局、入りきれない観客がかなりいたと聞いた。

劇場公演初日は客席から登場の早稲田ちんどん研究会で幕を開けた。軽快な演奏と日本の伝統芸の技と演技は今年も客席の笑いをさそった。舞台はがらりと変わり、あやめ会 姫猿之助による日本の大衆演劇。観客は早変わりや女形の妖艶な踊りに釘付けとなった。休憩の後、仁多乃炎太鼓のみなさんによる迫力ある和太鼓の演奏に会場からの拍手は鳴り止まなかった。

無事、初日の舞台が終了。満員の客席からの拍手が出演者の表情を輝かせたことを実感。あらためて、満席のありがたさに感謝。



早稲田ちんどん研究会



あやめ会 姫猿之助



仁多乃炎太鼓



劇場公演11月23日

【日時】 11月23日（日） 20：00～21：40

【場所】 国立音楽舞踊専門学校（CMD）

参加者

きものレディ着付学院、京小町踊り子隊、梨羽太朗、さくらモダンバレエスクール、佐取純子モダンバレエスタジオ、あやめ会 姫猿之助

2日目の今夜も、昨晚同様満員の観客で埋め尽くされた。

きものレディ着付学院による着付け舞と華やかな着物ショーで始まった。同じ着物でも次の舞台は、京小町踊り子隊の現代版の小町踊りである。若さあふれる踊りに客席はわいた。

休憩を挟み、梨羽太朗による剣舞で幕を開けた。次の舞台はがらりと変わり、さくらモダンバレエスクールと佐取純子モダンバレエスタジオのみなさんの演技である。幻想的なパフォーマンスに客席からの拍手が続いた。最後は昨日に引き続き、あやめ会 姫猿之助による日本の大衆演劇の一人舞台である。スピード感あふれる身のこなし、妖艶さ、華やかさに観客は酔いしれた。



きものレディ着付学院



さくらモダンバレエスクール



京小町踊り子隊



佐取純子モダンバレエスタジオ



梨羽太朗



あやめ会 姫猿之助



講談 神田紅



きもの帯結び・あやはた



横浜木琴クラブ



日本民謡研究会 浜松支部

劇場公演11月24日

〔日時〕 11月24日(月) 20:00~21:40

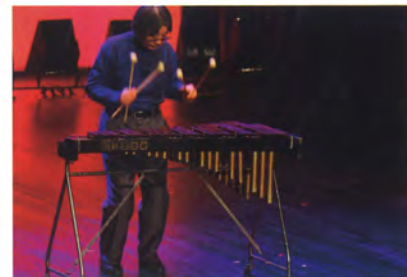
〔場所〕 国立音楽舞踊専門学校 (CMD)

参加者

講談 神田紅、きもの帯結び・あやはた、横浜木琴クラブ、日本民謡研究会 浜松支部

プロの講談師・神田紅氏の講談で幕を開ける。続いて、アトリエ・あやはたの皆様による 着物の帯結びの披露。休憩を挟んで横浜木琴クラブのマリンバ演奏。そして最後は、日本民謡研究会による民謡舞踊を披露。

神田紅氏は「マダム貞奴」を熱演。入念な準備の効果が功を奏し、熱い拍手が送られていた。アトリエ・あやはたは、地元ストラスブールのお嬢さんをモデルにした帯結びを披露。モデルたちも自分の着物姿にうっとりした様子、盛んに客席の拍手をもらっていた。



劇場公演11月25日

[日時] 11月25日 (火) 20:00~21:55

[場所] 国立音楽舞踊専門学校 (CMD)

参加者

梨羽太郎、スタジオぼこ・あ・ぼこ、ザ・ウィザーズ、津軽三味線貢清世会

今夜の演目は、梨羽太郎氏の剣舞、スタジオぼこ・あ・ぼこのタップダンス。そして、ザ・ウィザーズのフォークソング。休憩を挟んで後半は、津軽三味線貢清世会による琴、尺八、そして三味線の演奏。ザ・ウィザーズのフランス語でのMCをかためての心のこもった歌唱に、大きな拍手が送られていた。

後半は、津軽三味線貢清世会の琴、尺八、そして三味線の音色をたっぷりと聞かせることが出来、観客も堪能していた。



梨羽太郎



ザ・ウィザーズ



スタジオぼこ・あ・ぼこ



津軽三味線貢清世会





全日本婚礼美容家協会



ぼてとはうす



津軽三味線貢清世会



名古屋大学+ストラスブール大学コーラス部

劇場公演11月27日

[日時] 11月27日(木) 20:00~22:00

[場所] 国立音楽舞踊専門学校 (CMD)

参加者

全日本婚礼美容家協会、ぼてとはうす、津軽三味線貢清世会、名古屋大学+ストラスブール大学コーラス部

ジャパンウィークの最終日、オープニング時と比べると寒さも和らぎ、ジャパンウィークの締めくくりにふさわしい日である。今夜も満席。

毎回ご参加いただいている、全日本婚礼美容家協会の着物ショーで幕を開け、ぼてとはうすの群舞。休憩を挟んで津軽三味線貢清世会の琴、尺八と三味線の演奏、そして締めくくりは、地元ストラスブールの合唱団と名古屋大学合唱チームの合同による合唱披露。

全日本婚礼美容家協会の着物ショーは地元ストラスブールの若者、総勢16名がモデルとなって協力、すばらしい着物ファッションショーを作り上げてくれた。花嫁衣装に身を包んだストラスブールのお嬢さんの美しさに、日本人先生方もうっとりさせられ、客席からは割れんばかりの拍手が送られていた。

知的障害を持った若者たちによる群舞、ぼてとはうすのみなさんによるパフォーマンスは、客席を感動の渦に巻き込み、スタンディングオベーションの拍手がしばらくは鳴り止まなかった。ぼてとはうすの若者たちも、感動でうれし涙にくれていた。そして最後の締めくくりは、日・仏合同チームの合唱披露、暖かい雰囲気の中、幕が下りた。





リボンカッティングセレモニー

〔日時〕 11月23日（日） 09：30～10：00

〔場所〕 ブルス多目的ホール

日本側

愛知和男財団会長、川田司在ストラスブール日本国総領事、橋本和生理事代理、大西誠理事、丸尾和明理事、古田親吾財団常務理事

フランス側

ナウエル・ラフィック エルムリニ 副市長

オープニングのリボンカッティングセレモニーは、ブルス多目的ホールでご来場者が見守る中、愛知会長をはじめとする日本の実行委員会代表およびストラスブール副市長がご列席され、ストラスブール市国際課ポシヤール女史の日本の着物を着ての司会で行われた。

日仏両国代表のご挨拶の後、日本からの展示ご参加者名が紹介され、アルザス地方の民族衣装を着たフランスの男の子と女の子、法被姿と着物姿の日本の男の子と女の子がリボンを持った形で日仏両国代表によるリボンカッティングセレモニーが行われた。その後、日仏の実行委員会代表に展示会場のご観覧をしていただき、ストラスブール副市長は一つ一つの作品にご興味をお持ちになり、参加者代表に声をかけられた。



展示・実演

本年は、ブルス多目的ホールと商工会議所との2カ所での展示披露となった。ブルス多目的ホールでは、華道、書道、絵画、折紙、絵手紙、草木染、和菓子等の紹介及び実演、関西観光プロモーション、日本政府観光局による日本の観光の魅力のご案内、琴の演奏、日仏協会による交流会が開催されて、バラエティに富むものであった。もう一つの会場である、町の中心に位置するCCI（商工会議所）では、茶道、能面、書、絵画等の日本文化・芸術の紹介をメインに会場を構成した。

展示・実演 ブルス多目的ホール [日時] 11月23日(日)～27日(木)



コレクターが賞を選ぶ絵画展

ジャパンウィークがスタートした、約20年前よりご参加されていたお父様が9月に亡くなられ、お父様の遺志を継ぐ形で今回、ご子息、ご家族にご参加いただきました。来場された方々は、今年も展示された10点の作品をはじめ、画集をじっくり眺めて、投票用紙に向かっていた。

絵手紙教室いち語いち絵

会場に来られた方々に絵手紙を披露されると共に、「感謝」「ありがとう」「一期一会」等のしおりを差し上げたり、ご来場者より「一期一会」の意味についての質問のやりとり等、様々な形で現地の方々と交流をされていた。



桑原専慶流

ストラスブール市に到着されると、すぐに花を購入する為にストラスブールの花屋を数件まわられ、日本から送った花器および華道道具を使って、伝統的な華道と現代的な要素を取り入れた作品をご参加者が力を合わせて作られた。また、華道作品に囲まれて、代表による華道の実演も披露された。



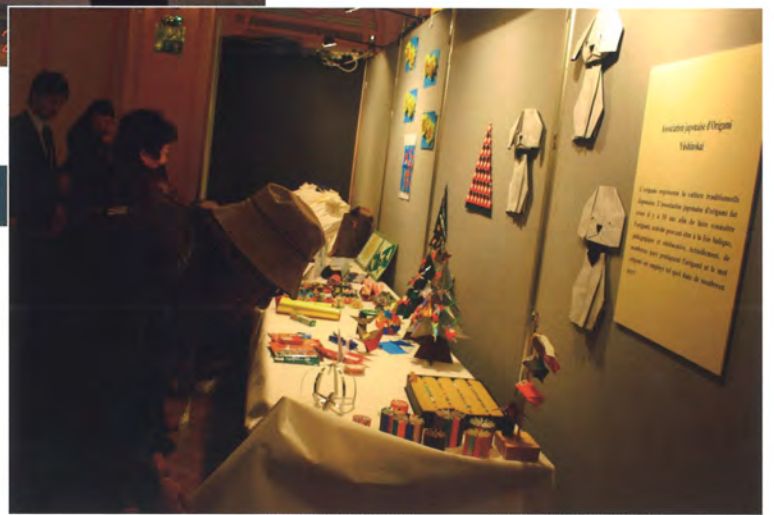


北日本書芸院換鷺会

古代漢字の成り立ちを書で表した「旅」の作品と、草書で書かれた和泉式部の恋の歌の作品の2作を今回のジャパンウィークの為にご制作、ご出展いただいた。多くのご来場者とその作品の前に立ち止まり、作品に見入っていた。

日本折紙協会 有志の会

和紙で出来たウエディングドレスと男性用のベストを着ての記念写真や、紙で作られた遊び道具や折紙作品をご紹介しますと共に、会場に来られた方々に折紙を教えていただき、交流を図った。



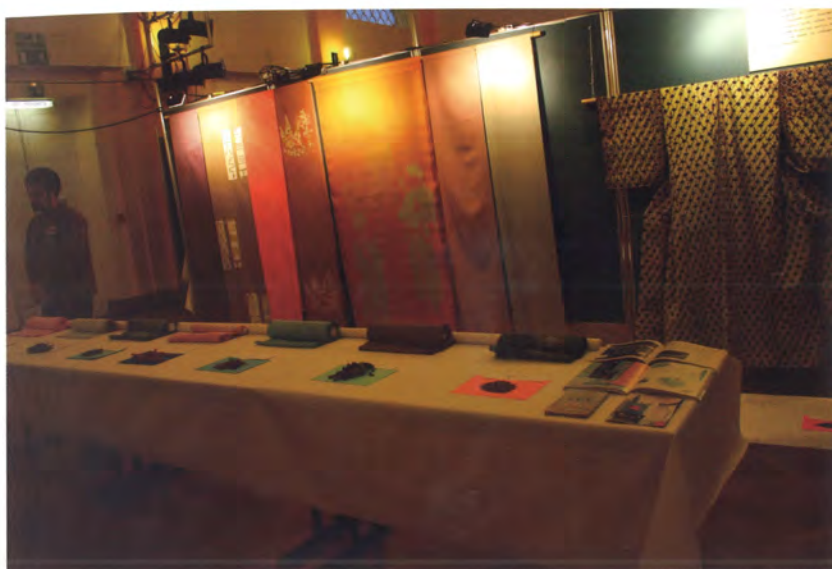
関西観光プロモーション実行委員会

京都、奈良、大阪、滋賀、和歌山、三重、兵庫、福井、徳島からなる関西の観光地を、宿泊施設、グルメ情報、観光情報、文化・歴史の紹介等、さまざまなパンフレットを用いてプロモーションしていただいた。

箏曲寿都音会

琴の演奏を楽しんでいただくのみでなく、実際に琴に触れていただき、弾いていただくなど、演奏会では出来ない手と手が触れる、琴を通じた交流をしていただいた。





草木染め工房 しかり

草木染めの帯と着物の作品、そしてその原料である草、木、実、根などをその発色の説明と共に展示していただき、多くの方が初めて見る原料に足をとめて見入っていました。また、実演では型紙作りと和紙染めを披露していただいた。

学校法人 東京製菓学校

日本よりお持ちいただいた材料を当地で調理していただき、和菓子を作っていただいた。展示会場では、試食用として作っていただいたものをご来場者にお配りすると共に、和菓子の作品をケースにて展示していただいた。



日本政府観光局 (JNTO) パリ観光宣伝事務所

ブルス展示会場の入り口付近で、展示デスクにてご出展され、ご来場の方々に最初のお声かけをしていただいた。日仏交流150周年を記念すると共に、日仏間の観光を益々促進させるよう、ようこそジャパンのプログラム等、ご来場者にアピールされていた。



展示・実演 CCI（商工会議所）

【日時】 11月23日（日）～28日（金）



書道家 矢部澄翔

ブルス多目的ホールと商工会議所の2カ所で実演していただいた。会場に来られた方々のお名前をインスピレーションで漢字に当てはめカードに書いて差し上げるという交流では毎回長い列ができ、萩原朔太郎の詩を書くなどの実演では、床に広げられた和紙に書かれる作品を見ようと、人だかりの下からしゃがんで覗き込む方もいた。実演時間以外でも、絵画のような展示作品に足を止め、近くのスタッフに質問するご来場者もおられた。

財団法人 自治体国際化協会パリ事務所

懐かしい日本の風景を描いた山形県出身の内藤秀因氏の絵画の展示や、フランスから日本に先生を派遣している「ジェットプログラム」を写真や小冊子等でご紹介いただいた。日仏間の交流に携わる仕事がしたいという現地の若者の質問に、丁寧にお答えいただく場面もあった。



株式会社 美研インターナショナル

「Salon du soleil」と題した今回の発表では、日本画・書道・版画・油絵・工芸・写真・俳句・短歌など、幅広いジャンルの作品が展示され、ご来場者はそれぞれの作品の前で足を止め見入っておられた。作者宛に作品の感想とメッセージを書いていただいたご来場者に、カレンダーや本を差し上げるなど交流を図っていただいたが、とても好評でみなさん熱心にメッセージをしたためていた。

日本伝統工芸「能面」麻生能忍展

全期間を通して、能面の製作過程や、同じ能面を見ても見る人によって様々な表情に見えることなど、能面の世界をご説明いただいた。ユーモアを交えた説明に、会場からは笑い声が上がっていた。また、能を描いた紙にサインをし、ご来場者のお名前をカタカナで書いて差し上げるという交流では、能面について熱心に質問する方もおり、会場に長い列ができた。



茶道 CCI (商工会議所)

[日時] 11月23日 (日) ~25日 (火)



一期一会

総領事館のご紹介による、ドイツ・スイスおよびフランスにお住まいの日本人の有志、日仏双方のボランティアスタッフによる茶道グループで、今回のジャパンウィークの為に結成していただき、遠州流のお手前をご披露いただいた。



松和会

表千家の茶道と松花古流の生け花の披露を午前2回、午後4回の合計6回行なっていたいただき、それぞれ大変盛況で、多くの来場者に日本の茶の湯文化を十分に楽しまれた。



煎茶道静風流

日本のお茶を、煎茶道として紹介していただいた。お茶を飲むだけでなく、書、絵、生け花などの要素を取り入れ、茶器、道具へのこだわり、茶席の演出としてお客様をおもてなしする煎茶道で、10回を超えるお手前披露によってストラスブール市の方々をお持てなしていただいた。

フランスでの日本茶のさらなる浸透・普及に貢献していただいた。



日本の心 古武道演武会 & 祭り

[日時] 11月23日(日) 16:00~18:10
 [場所] ロトンド体育館

日本側

愛知和男財団会長、川田司在ストラスプール日本国総領事、丸尾和明理事、古田親吾財団常務理事

フランス側

アーヌマリハイ副市長

参加者

伯耆流居合術、神道夢想流杖術、琉球古武術保存振興会、円心流居合据物剣法、地元ストラスプールの柔術グループ(武徳館)、早稲田ちんどん研究会、京小町踊り子隊、仁多乃炎太鼓

昨日のオープニングフェスティバルにつづき今日も朝からとても寒い一日。

立ち見が出るほどの満員の観客に恵まれ、アーヌマリハイ副市長、愛知会長、川田総領事、丸尾理事が出席したセレモニーに続いて、伯耆流居合術、地元ストラスプールの柔術グループ(武徳館)、神道夢想流杖術の古武道3種を披露。静・動交互の世界に満員の観客の目が一点に注がれ、客席は静寂に包まれた。

京小町踊子隊の若くみずみずしい踊りで気分を和ませたあと、琉球古武術保存振興会、円心流居合据物剣法の古武道2種を披露。最後の円心流居合据物剣法の演武、真剣による竹の据え物切りの実演は観客をびっくりさせていた。

締めくくりは、仁多乃炎太鼓の勇壮な和太鼓演奏、途中帰る観客もなく、最後まで熱心に「日本の心」に見入っていた。そして観客の送出しに早稲田ちんどん研究会が登場、観客の気持ちを和ませていた。





伯耆流居合術



琉球古武術保存振興会



武徳館 (ストラスブール)



円心流居合物剣法



神道夢想流杖術



仁多乃炎太鼓



京小町踊り子隊



早稲田ちんどん研究会

表敬訪問

〔日時〕 11月24日（月） 11：30～12：30

〔場所〕 ストラスブール旧市庁舎

旧市庁舎内グランドサロンで、ナウエル・ラフィック エルムリニ副市長がお出迎えしていただく中で、財団法人煎茶道方円流、スタジオぽこ・あ・ぽこ、横浜木琴クラブ、梨羽太朗の皆様が入場して表敬訪問がスタートした。

はじめに副市長から歓迎のご挨拶をいただき、表敬訪問参加の各団体の紹介が行われた。

そしてオープニングレセプションにご参加されなかった各団体代表へ副市長より「参加証書」が手渡された。その後、各団体代表より自己紹介が行われ、副市長以下、フランス側出席者には興味深く話を聞いていただいた。

セレモニーの最後として副市長より、表敬訪問出席者おひとりずつに記念品を手渡され握手を全員としていただいた。

セレモニーが終了し、ストラスブール市側にご用意いただいた軽食と飲み物を楽しみながら、参加団体の出席者は副市長と懇談をした。



交流プログラム（学校訪問）

京小町踊り子隊

日時 11月24日（月）08：45～11：15
 学校名 サン・ジョン小学校 (Ecole Elementaire ST Jean)
 交流場所 小学校体育館
 交流対象 幼稚園生と小学生 300名

集った生徒は、京小町踊り子隊のエネルギッシュな踊りに盛り上がり、身にまとっていたきれいな着物に大変惹かれた。京小町踊り子隊の皆様が日本のマンガ、ピカチュウの歌を生徒に教えてあげたところ、大変喜んだ。



早稲田ちんどん研究会

日時 11月24日（月）14：15～15：30
 学校名 サン・ジョン小学校 (Ecole Elementaire ST Jean)
 交流場所 小学校体育館
 交流対象 幼稚園生と小学生 300名

小学校到着後、まず、早稲田ちんどん研究会が演奏をいくつかに分けて行った。

彼らのコスチューム、化粧、そして音楽に生徒は大変興味をもち、その後は生徒からのさまざまな質問タイムとなった。最後に彼らの楽器を体験するワークショップを行い、交流を楽しんでいた。



仁多乃炎太鼓

日時 11月24日（月）08：30～11：00
 学校名 エルクマンシャトリアン小学校 (Ecole Elementaire Erckmann Chatrian)
 交流場所 小学校体育館
 交流対象 小学生（6～13歳）140名



和太鼓のパフォーマンスの前に校長先生より、「和太鼓の生演奏を見る機会は珍しく、生涯にこのような機会は本日限りかもしれないので、集中して見るように！」との言葉があり、生徒は太鼓の演奏に集中していた。

演奏後、生徒は順番に太鼓をたたくことを経験させてもらい、とても楽しそうであった。



横浜木琴クラブ

日時 11月24日(月) 14:15~16:10
 学校名 アンペール小学校 (Ecole Elementaire Ampere)
 交流場所 小学校体育館
 交流対象 小学生(6~10歳) 180名



木琴の伴奏用に学校側でシンセサイザーを用意していただき、木琴のパフォーマンスを行った。生徒には「木琴」という楽器にとっても興味をもったようであった。パフォーマンスした曲の中で、数曲は生徒も知っている曲であり、メロディーに親しみ喜んでいた。



草木染め工房しかり

日時 11月24日(月) 14:00~18:30
 学校名 ジョン・ロスタン専門学校 (Lycee Jean Rostand)
 交流場所 学校教室
 交流対象 服のデザインや裁縫を学ぶコースの生徒(15~21歳) 75名

上記75名を三つに分けての講義とワークショップを行った。1回目のクラスでは草木染色の具体的な説明と染色の歴史についての話をした。2回目のクラスでは草木染めの説明及び染色の材料を具体的に見せての説明をした。3回目のクラスでは1、2回目のクラスと同様の草木染の説明と実際にハンカチを染めるワークショップをした。和気あいあいと楽しい雰囲気の中で交流を進めることができた。



スタジオぽこ・あ・ぽこ

日時 11月24日(月) 16:00~18:00
 学校名 国際高校 (Lycee International)
 交流場所 高校体育館
 交流対象 高校3年生および2年生 合計50名



まず、スタジオぽこ・あ・ぽこよりタップダンスを3曲生徒に披露した。着物とタップダンスの組合せに大変興味深いようであった。その後、生徒全員に鳴子を配り、それを持たせてダンスの振り、ステップを生徒に教えた。時間を追うごとに生徒もだんだんできるようになり、最後の曲に合わせて全員が同じ振りとはステップが出来たときには大歓声であった。

最後に一同丸くなって座り、スタジオぽこ・あ・ぽこの音楽やダンスについての質問を受けたり、お互いの国のイメージのことをお互いに質問しあったりして交流を深めた。



ザ・ウィザーズ

日時 11月24日(月) 14:00~16:15
 学校名 グリスベルグ小学校 (Ecole Elementaire Glienberg)
 交流場所 小学校体育館
 交流対象 小学生(6~10歳) 140名

上記140名を学年で2つにわけて交流をした。前半は高学年の生徒。9曲日本の歌を披露し、「さくら」の歌では生徒に歌詞を教えて盛り上げた。後半の低学年の生徒にも、7曲日本の歌を披露し、その後日本語の文字を教えたりしながら楽しく交流を進めた。



梨羽太郎

日時 11月25日(火) 13:45~15:45
 学校名 グリスベルグ小学校 (Ecole Elementaire Glienberg)
 交流場所 小学校体育館
 交流対象 小学生(6~10歳) 210名

上記生徒を高学年、中学年、低学年に分けて下記のように交流を行なった。

まず、梨羽太郎氏より剣舞、剣の使い方、そして身にまとっている衣装の説明をした。その後、生徒と剣はなしではあるが、一緒に剣の舞を踊った。生徒はとても盛り上がり、先生も大喜びであった。



ぽてとはうす

日時 11月28日(金) 08:30~10:30
 学校名 ラン小学校及び幼稚園 (Ecole MatherneIn et Elrmentaire du Rhin)
 交流場所 小学校体育館
 交流対象 小学生、幼稚園生(3~10歳) 120名

最初集った小学生には踊りのパフォーマンスを行った。生徒は皆とてもうれしそうな顔をしていた。その後、その踊りを教えながら一緒に踊ったり、ボールペンによる点描画のポストカードを生徒に配ったりした。

次に幼稚園生が集り、踊りのパフォーマンスの後、生徒の名前をひらがなで書いてあげて大変喜ばれた。

交流プログラム（老人ホーム訪問）

ザ・ウィザーズ

日時 11月23日（日） 15:00~16:30

老人ホーム名 サン・タルボガスト老人ホーム (Maison de Retraite Saint Arbogast)

交流場所 老人ホーム内カフェテリア

交流対象 老人ホーム入居者 20名

ザ・ウィザーズの皆様はご老人にとっても聞きやすく魅力的な歌と演奏であったので大変興味をもっていただいた。最後の歌はJe serai la plus belle aller danser（日本語名：アイドルを探せ）というフランスの有名な歌の時、ご老人より拍手喝さいを浴びた。

最後にコーヒーとクグロプフ（アルザスのケーキ）を皆で食べて終了した。



日本民謡研究会 浜松支部

日時 11月24日（月） 14:00~15:00

老人ホーム名 ボア・フルリ老人ホーム (Maison de Retraite Bois Fleuri)

交流場所 老人ホーム内カフェテリア

交流対象 老人ホーム入居者 30名

この交流プログラムに参加したご老人は日本民謡研究会の皆様の着物姿と踊りのパフォーマンスに大変喜んでいただいた。次に折り紙の実演をご老人の前で披露し、楽しんでいただいた。最後に皆でコーヒーを飲んで交流プログラムは終了した。



財団法人 煎茶道方円流

日時 11月24日（月） 14:00~15:00

老人ホーム名 サン・ゴタル老人ホーム (Maison de Retraite St-Gothard)

交流場所 老人ホーム内カフェテリア

交流対象 老人ホーム入居者 50名



方円流の皆様が到着した時には老人ホームではすでに職員の方が受け入れ準備を済ませ、数十人のご老人も座ってお待ちしていただいていた。

実演は50人くらいの前で行った。着物姿でふるまっていたいただいたお茶、お菓子をふるまい、ご老人は大喜びであった。その後老人ホームからのたくさんの質問について受け答えをした。

最後に老人ホームからのワインとクグロプフ（アルザスのケーキ）を楽しんで終了した。

箏曲寿都音会

日時 11月24日(月) 14:30~16:00
 老人ホーム名 エマウス老人ホーム (Maison de Retraite Emmaus)
 交流場所 老人ホーム内サロン
 交流対象 老人ホーム入居者 40名

箏曲寿都音会が老人ホームに到着したときには、老人ホーム所長を含め、ご老人に拍手で歓迎された。琴のパフォーマンスの中でフランスの曲の演奏のときには、ご老人は曲に合わせて一緒に歌って楽しんだ。「琴」という楽器に興味を持っていただき、色々な質問もなされた。ご老人は琴演奏を通じての交流に満足した様子であった。



梨羽太郎

日時 11月24日(月) 14:45~16:00
 老人ホーム名 リトルシスター老人ホーム (Petites Soeurs des Pauvres)
 交流場所 老人ホーム内イベント会場
 交流対象 老人ホーム入居者 40名

梨羽氏より、剣舞を含めた三つの舞を披露し、ご老人に喜ばれた。その後、梨羽氏が各舞と、舞の中のひとつひとつの象徴している動作の説明をした。そして日本についての一般的な質問がご老人より寄せられてその受け答えをした。最後にティータイムとなり交流プログラムを終了した。

交流プログラム (一般交流)

姫路日仏協会

日時 11月25日(火) 13:00~15:00
 交流場所 ブルス多目的ホール
 交流対象 ストラスブール記者クラブおよびADIRA (アルザス民間大使グループ) 30名



姫路日仏協会の皆様をご来場されたストラスブール記者クラブおよびADIRA (アルザス民間大使グループ)と日本文化を紹介することを通じて交流した。

姫路日仏協会の皆様ははじめに、全員で輪になって手をつなぎ、日本の歌を紹介した。次に数箇所の用意されたワークショップのグループに分かれて、折紙、茶道等のご紹介と実演、姫路の特産品の紹介等をした。姫路日仏協会とご来場された皆様はにこやかに交流を楽しんでいた。

交流プログラム（料理交流）



〔日時〕 11月26日（水） 08：00～16：00

〔場所〕 アレクサンドル・デュマ料理学校

この日の料理交流は、日仏双方で料理を作り、合同試食会をするというプログラムであった。日本側からは東京製菓学校が「和菓子」を、姫路日仏協会が「お好み焼き」を、マクロビクッキングスクールが「和食」を作っていた。

三つの団体は分かれてキッチンにて準備に入った。アレクサンドル・デュマ料理学校の生徒も自主的に慣れない手つきながらそれぞれの団体の準備作業に加わって手伝った。

東京製菓学校が予め作成していた「和菓子」にはそれらの和菓子の美しさに見とれて、多くの生徒が携帯電話にて写真を撮っていた。また、材料を手で形づくる作業では、東京製菓学校の先生のやり方に生徒は集中して模倣しようとしていた。姫路日仏協会の鉄板、フライパンを使ってのお好み焼きを焼く場面では生徒がとても興味深く作業をしていた。

マクロビクッキングスクールの準備作業では、出来上がったものをきれいに型作る作業を楽しく続けていた。

準備が11：00すぎには終了し、となりのレストランにて学校関係者、その後市民も加わって試食会をスタートした。東京製菓学校の和菓子はその美しさと上品な味わいを喜んでいただき、姫路日仏協会のお好み焼きは「Japanese Pizza」と呼ばれ、独特のソースが評判であった。またマクロビクッキングスクールの穀物をふんだんに使った、オーガニックの「おむすび」「寿司ケーキ」をはじめとする見た目もきれいな和食は、大変ヘルシーであり、おいしく上品な味わいであり、学校関係者、市民にご試食を堪能していただいた。

料理学校も朝から作りはじめたクグロブフ（アルザスのケーキ）をふるまっていたいただき、日本からの参加者の皆様はこの地方独特のフランス菓子を味わった。

試食タイムの途中では、お互いの自己紹介も行って交流を深めた。

食を通じてのこの日の「交流」は大成功であった。



東京製菓学校



マクロビクッキングスクール



姫路日仏協会



【日時】 11月27日 (木) 09:00~13:00

【場所】 アレクサンドル・デュマ料理学校

この日は料理学校実習室にて昨日の料理交流に参加しなかった生徒が集り、東京製菓学校が単独で「和菓子」の講義と実習を行った。

和菓子の「あんこ」の主材料である大豆についての説明からはじまった講義では、生徒が興味深そうにメモを

とり講義に聞き入っていた。その後のキッチンでの実習では、材料を手で形づくる作業を東京製菓学校の先生が見本を示して、生徒はそれを見よう見真似で同じように形づくろうと努力していた。

前日の合同試食とは違った一対一の交流であったが、とても有意義な時間を過ごせた。

料理学校も前日と合わせて、大変喜んでいただき、感謝のお言葉をいただいた。



東京製菓学校

西日本友好親善訪問団 交流プログラム

フランス国鉄貸切列車乗車と コルマルでの歓迎ランチ

【日時】 11月21日(金)・24日(月)・26日(水)

【場所】 ストラスブール駅→コルマル駅、カトリネット元修道院



西日本各地から有志が参加している西日本友好親善訪問団は、鉄道関係業務に従事している参加者が多いことから、今回はフランス国鉄との鉄道関係行事が中心となった。11月21日と24日そして26日の3回、各滞在ホテルを出発した参加者は、トラムにてストラスブール駅に集合。まずはフランス国鉄によるストラスブール駅構内の案内を受けた。ストラスブール駅は昨年のTGV東ヨーロッパ線の開業に伴い大規模な改装が行われ、現在は総ガラス張りドームの斬新なデザインが特徴である。その後、特別に手配された貸切列車に乗車、コルマルへと向かった。今回フランス国鉄が用意した車両はAGCトレインと呼ばれる新型のハイブリッド気動車で、一同はその斬新なデザインに目を見張った。途中、列車は山沿いの支線筋を通ったことから、参加者はフランスの田舎ののどかな沿線風景を楽しみつつ、また列車にはフランス国鉄の関係者も多く同乗していたことから鉄道の技術的な話しに花が咲いた。そしてコルマル到着後はコルマル市、南アルザス観光局、アルザス欧州日本学研究所の取り計らいで実現した由緒あるカトリネット元修道院でのランチとなり、クリスティーヌフェルベールの美味しいメニューに舌鼓をうった。

なお本年はこの他、21日にストラスブール市内のマークブロック大学にて、フランス国鉄との鉄道シンポジウムも開催された。

今回ご参加いただいた西日本友好親善訪問団の参加者に感謝の意を表するとともに、地元とのより一層の親善交流を図るため、オランジェリー公園内にあるストラスブール市迎賓施設「ジョセフィーヌ」にて夕食会「ストラスブールナイト」を開催。日本側は21日が丸尾和明氏／株式会社日本旅行代表取締役社長、24日が安富徹氏／株式会社京都駅観光デパート代表取締役社長、26日が池田靖忠氏／大阪ターミナルビル株式会社代表取締役社長、フランス側は21日がロバートエルマン氏／ストラスブール市第一副市長、24日がジョンジャックゼル氏／ストラスブール市副市長兼市議会議長、26日がマークレビー氏／南アルザス観光局長のそれぞれご挨拶で始まったストラスブールナイトは、参加者の皆様にフランス料理のコース料理をご堪能いただくとともに、アトラクションではアルザス民謡とシャンソンをお楽しみいただいた。特に我々日本人に馴染みの深いシャンソン「オーシャンゼリゼ」の場面では、多くの参加者がステージに登壇、一緒に歌うなど大いに盛り上がった。そしてこの夕食会は盛況のうちにおひらきの時間となり、来年の開催地オーストリア、グラーツの案内とともに終了した。

ストラスブールナイト

【日時】 11月21日(金)・24日(月)・26日(水)

【場所】 ジョセフィーヌ



野外宣伝（パフォーマンス）



早稲田ちんどん研究会

【日時】 11月22日(土)、23日(日)、および25日(火)の午前、および午後

【場所】 クレペール広場、グーテンベルグ広場

初日の22日のオープニングフェスティバルが始まる前から、早稲田ちんどん研究会の野外宣伝パフォーマンスがスタートとなった。この日は路上パフォーマンス直前まで雪が降っていた天候にもかかわらず、早稲田ちんどん研究会のパフォーマンスによって、フェスティバル見学者を会場であるブロジー広場に呼び寄せることができた。

早稲田ちんどん研究会はその後、25日まで、市内中心部の広場にて野外宣伝を行い、カラフルな衣装、化粧およびライブの音楽にてジャパンウィークへ市民の関心を取り込んでいただいた。市民と身近なところでふれあいながらの貴重な野外宣伝であった。

Strasbourg / Cérémonie d'ouverture de la « Japan Week »

Arigatou gozaimasu!*

Malgré le froid, des centaines de spectateurs subjugués par la beauté du spectacle ont assisté hier à la cérémonie d'ouverture de la « Japan Week ».

■ A la faveur d'une éclaircie sur les toits partiellement enneigés de la place Broglie, les voix cristallines des écoliers de Niedermorschwihr se sont mêlées à celles des enfants japonais de Colmar pour ouvrir les festivités de la « Japan Week ».

■ Une semaine de découverte et de connaissance de l'autre

Par cette froideur - ou toute tentative de prise de notes ressemble à un exercice de calligraphie maladroit et involontaire -, et dans ce décor

- que ne renierait pas le prix Nobel de littérature Yasunari Kawabata, l'auteur japonais du roman « Pays de Neige » qui s'est mis au diapason des hôtes japonais, la semaine a été placée sous les meilleurs auspices. « Une semaine de découverte et d'approfondissement de la connaissance de l'autre », ont souligné les personnalités présentes parmi lesquelles le député Kazuo Aichi, directeur de l'International Friendship foundation (IFF), ainsi que Tsukasa Kawada, conseil général du Japon, et - côté français - Roland Ries, maire de Strasbourg, accompagné par son adjointe chargée des relations internationales Nawel Rafik-Elmrini, Adrien Zeller, président du conseil régional, ou encore Raphaël Nisand, maire de Schiltheim.



Les étudiants du groupe Chindon de Waseba ont rassemblé la foule sur la place Broglie, hier après-midi. (Photo DNA-Laurent Réa)

En costumes traditionnels

C'est spectacle, dans un froid à pierre fendre, une quinzaine de danseuses de Kyôkumachi, en kimonos et en tenues traditionnelles, ont su charmer un public transi, par un hymne à la féminité, avec la même grâce, imagi-

ne-t-on, qu'il y a 370 ans, lorsqu'elles avaient accueilli le shôgun Iemitsu Tokugawa à Kyoto.

Avant qu'un acteur de théâtre populaire -Hime Ennosuke-, seul en scène, n'achève de réchauffer les spectateurs en faisant l'éta-

le de son talent de transformiste, via différents tableaux choisis du théâtre traditionnel japonais, traduits en différents costumes et masques aussi colorés que spectaculaires. Ce fut enfin au tour des tambours de Nita -qui re-

sortent du fourneau tatara lors de la production d'acier- d'enflammer les cœurs. Philippe Dossmann

■ Programme de la semaine complètes sur le site de la Ville de Strasbourg: www.strasbourg.fr

* Traduction: « Merci beaucoup! »

Concert franco-japonais

■ Lundi 24 novembre. Dans le cadre de la Japan Week, l'association L'Arachi D'orchestre propose avec le chœur de l'Université de Nagoya un concert à capella à 20h30 dans la salle Pasteur, du palais universitaire de Strasbourg, 9, place de l'Université à Strasbourg.

DNA / Strasbourg

Page 7, Ambassade d'Israël découvre le esprit de la place Broglie



Le magazine hebdomadaire de la communauté juive de Strasbourg, le magazine de la place Broglie, a été découvert hier par les membres de l'ambassade d'Israël à Strasbourg. L'occasion de découvrir et d'écouter de comprendre les codes de l'hospitalité japonaise.

Strasbourg / Japan Week

Comment boire le thé en trois gorgées

Plusieurs centaines de personnes ont assisté hier après-midi à la cérémonie de la place Broglie de la Ville de Strasbourg et du Dojo de la Ville de Strasbourg, en présence de l'ambassadeur d'Israël à Strasbourg, de l'ambassadeur du Japon à Strasbourg, de l'ambassadeur de France à Strasbourg, de l'ambassadeur de la République de Corée à Strasbourg, de l'ambassadeur de la République de Chine à Strasbourg, de l'ambassadeur de la République de Taïwan à Strasbourg, de l'ambassadeur de la République de Singapour à Strasbourg, de l'ambassadeur de la République de Malaisie à Strasbourg, de l'ambassadeur de la République de Thaïlande à Strasbourg, de l'ambassadeur de la République de Viet Nam à Strasbourg, de l'ambassadeur de la République de Philippines à Strasbourg, de l'ambassadeur de la République de Indonésie à Strasbourg, de l'ambassadeur de la République de Brunei à Strasbourg, de l'ambassadeur de la République de Singapour à Strasbourg, de l'ambassadeur de la République de Malaisie à Strasbourg, de l'ambassadeur de la République de Thaïlande à Strasbourg, de l'ambassadeur de la République de Viet Nam à Strasbourg, de l'ambassadeur de la République de Philippines à Strasbourg, de l'ambassadeur de la République de Indonésie à Strasbourg, de l'ambassadeur de la République de Brunei à Strasbourg.



Dans la pénombre du Dojo, un thé japonais est servi à la place Broglie. (Photo DNA-Laurent Réa)

Le thé japonais est servi à la place Broglie, hier après-midi, dans le cadre de la cérémonie d'ouverture de la Japan Week. L'occasion de découvrir et d'écouter de comprendre les codes de l'hospitalité japonaise.

■ Une semaine de découverte et de connaissance de l'autre

Que retenir-vous de la Japan Week ?

C'est un mélange peu connu tout à fait d'actualité, le public de la Japan Week est plus composé par ce qu'il a découvert que par ce qu'il a vu. On a vu beaucoup de choses à la place de la Broglie à Strasbourg et on a vu beaucoup de choses à la place de la Broglie à Strasbourg.



Les participants à la Japan Week ont été nombreux à se rendre à la place Broglie, hier après-midi. (Photo DNA-Laurent Réa)

Santé Un nouveau centre de soins à l'Esplanade

La Mutualité Française Alsace a inauguré récemment son nouvel espace de santé, implanté au cœur de l'Esplanade. Une manière d'afficher sa proximité avec les étudiants.

Des murs aux couleurs chaudes, des cabinets destinés aux soins d'urgence, de longues tiges de bambou entourées de fleurs...

Le nouveau centre de santé ouvert à l'Esplanade par la Mutualité Française Alsace a tout pour rendre l'accueil des patients plus chaleureux. Mis en service en février dernier, les locaux ont été inaugurés récemment par Roland Ries, maire de Strasbourg.

Pour Roger Plana, président de la Mutualité Française Alsace, il s'agit d'un « événement important, parce qu'il nous ouvre un réseau mutualiste en

Alsace. C'est la première fois qu'on ouvre un centre aussi grand ». S'étalant sur près de 700 m², l'espace de santé se compose de plusieurs entrées consacrées aux soins dentaires et d'orthodontie, à l'audioprothèse, à la médecine générale ainsi qu'au conseil conjugal et familial.

Pour tout assuré social Ce nouvel espace regroupe en fait les deux anciens centres de santé de Strasbourg, qui se situaient à la Kruetenau et rue de Palermes. Si l'Esplanade a été choisie, ce n'est pas par hasard.

Mais les soins sont ouverts à tout assuré social, et les médecins ne pratiquent pas de dépassement d'honoraires. « C'est

permet à tous un égal accès aux soins de santé », ajoute le président de la Mutualité Française Alsace. Et la démarche est soutenue par Roland Ries: « Favoriser le regroupement de citoyens autour [...] d'objectifs de prévention en matière de santé me paraît d'une absolue actualité, dans le contexte de crise que nous connaissons aujourd'hui ».

Au premier trimestre 2009, l'Espace mutualiste de santé de l'Esplanade proposera deux nouveaux services, avec la création d'un cabinet d'implantologie dentaire et de gynécologie. Par ailleurs, la Mutualité Française Alsace prévoit l'ouverture de centres de santé à Haguenau (fin 2009), Saverny et Thann.

Aurélié Fels
- R. rue de Londres à Strasbourg

Japan Week Encore trois jours

La Japan Week a débuté ce week-end à Strasbourg et se poursuit jusqu'à jeudi. 1 500 Japonais sont attendus lors de la manifestation pour présenter leur culture et leurs traditions aux Alsaciens.

Ce dimanche, les curieux ont pu assister, au gymnase de la Rotonde, à un festival d'arts martiaux de jadis, encore méconnus. Aujourd'hui, dernières cérémonies du thé de la semaine. La cérémonie du thé est un art asiatique très ancien, qu'il est rare d'observer. Rendez-vous à la Chambre de Commerce et d'Industrie, aujourd'hui à partir de 10 h.

Ce soir - 20 h - à la Cité de la Musique et de la Danse (CMD), les mélomanes auront le choix entre The Wizards, un groupe de musique folk, et Teigaru Shamisen Mitokuji, qui présentera des chansons populaires accompagnées d'instruments traditionnels.



Toutes les animations sont gratuites. D. R.

Outre cette série de spectacles, sont aussi proposés des ateliers, Aïnsi, demain mercredi, les jeunes habitants de la CUS pourront aussi découvrir le

Souffle nippon sur la capitale

Avec un grand sens de l'accueil, les Japonais ont fait de Strasbourg la « Japan Week », jusqu'à jeudi. Par le biais de spectacles, ateliers et ateliers, ils ont cherché à faire connaître leur culture.



Toutes les animations sont gratuites. D. R.

Japon, car la médiathèque Malraux présente dès 15 h aux enfants de 7 à 13 ans des contes en rapport avec les arts martiaux.

Stéphanie Goutte

DNA / Strasbourg et sa région / Temps forts

Strasbourg / Japan week du 22 au 27 novembre

Une semaine sous le signe du Japon

Strasbourg va vivre à l'heure du pays du Soleil levant pendant la Japan week, du 22 au 27 novembre. Spectacles et expositions sont au programme de cette semaine culturelle japonaise, pour laquelle plus d'un million de Japonais se sont déplacés.

■ Festes, progrès, savoir... Le Japon est un pays fascinant, riche de traditions millénaires, de savoir-faire exceptionnels, de paysages à couper le souffle. C'est pourquoi la France a choisi de consacrer une semaine à la découverte de ce pays. La Japan Week est l'occasion de découvrir le Japon, de vivre le Japon, de partager le Japon.

■ Appel aux bénévoles Les bénévoles sont les bienvenus pour participer à la Japan Week. Ils pourront aider à l'organisation des événements, à la gestion des lieux, à la prise en charge des participants, etc.

DNA / Strasbourg

Strasbourg / La « Japan week » du 22 au 27 novembre

Coeur Soleil levant

Strasbourg va vivre à l'heure du pays du Soleil levant pendant la Japan week, du 22 au 27 novembre. Spectacles et expositions sont au programme de cette semaine culturelle japonaise, pour laquelle plus d'un million de Japonais se sont déplacés.

■ Appel aux bénévoles Les bénévoles sont les bienvenus pour participer à la Japan Week. Ils pourront aider à l'organisation des événements, à la gestion des lieux, à la prise en charge des participants, etc.

和歌山のトップを世界に

「まりと殿様」ぶんだら節等

和歌山のトップを世界に。本日は、和歌山の文化を世界に紹介するためのイベントです。和歌山の文化は、古くから栄え、その歴史と伝統は、世界に誇れるものです。本日は、和歌山の文化を世界に紹介するためのイベントです。和歌山の文化は、古くから栄え、その歴史と伝統は、世界に誇れるものです。

3334 13万 那賀文化

開催時の現地の様子



編集後記

今回のジャパンウィーク開催にあたり、ストラスブール市側関係者並びにフランス側実行委員会の日本・フランス友好のための熱心な受入の協力に感謝申し上げます。またジャパンウィーク運営を支えてくれた、フランスにおいては在ストラスブール日本国総領事館、アルザス・欧州日本学研究所はじめ現地関係各機関、そして日本においてはフランス政府観光局の皆様方に厚く御礼申し上げます。わけても昼夜を問わず共にこの運営に携わっていただいた現地コーディネーターそしてジャパンウィークの主旨にご賛同いただき、お忙しい中にも関わらずボランティアを買って出てくれた皆様方、そして有形無形でご支援いただいた関係者の方々のご協力なくして無事終了する事は出来ませんでした。ここに深く感謝申し上げます。

また経済情勢をはじめとする、世界が依然混沌とする中で、日本全国各地よりジャパンウィークの趣旨にご賛同して、ご参加いただき日本・フランスでの草の根レベルの国際交流にご活躍された皆様方に厚く御礼申し上げます。

真摯な相互理解・異文化理解の輪を広げて、世界が心一つになれることを願って止みません。ジャパンウィークを通じて、世界への恒久平和に少しでも前進できれば幸いです。

皆様方のご支援・ご協力を引き続きお願い申し上げます。次第です。



助成



独立行政法人 日本万国博覧会記念機構

Commemorative Organization for The Japan World Exposition '70



財団法人 双日国際交流財団



助 成



独立行政法人 日本万国博覧会記念機構

Commemorative Organization for The Japan World Exposition '70



財団法人 双日国際交流財団



財団法人 国際親善協会

〒113-0034 東京都文京区湯島1-9-4 嶋原ビル3階

Tel. 03(5802)0351 Fax. 03(5802)0353

メールアドレス: info@iffjapan.or.jp

ホームページ: <http://www.iffjapan.or.jp>

International Friendship Foundation

Shigihara Bldg. 1-9-4, Yushima, Bunkyo-ku, Tokyo Japan 113-0034
Tel. 03(5802)0351 Fax. 03(5802)0353 e-mail: info@iffjapan.or.jp